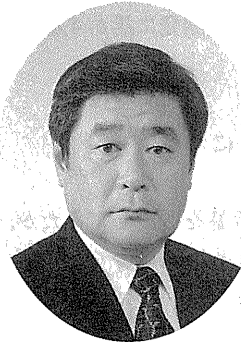


ずいそう



単身赴任生活の功と罪

鈴木 宏

皆さん コンニチワ コマツの鈴木です。

「日頃の稼業」云々は本稿に馴染まず、とあっさり辞めて、表題の「単身生活」について書きましょう。諸兄にはきっと長期体験者が数多く、いずれの方も頑張っておられる事と思いますが、私も連続12年であります。(もっとも“私の12年”はほんの雑巾掛け程度でしょうが) 家人はいつもこう申しております。

「気のあった人達と好きなコトを好きなようにやって、まるで倶楽部活動の延長戦ネ」と。

「働かせて貰っている」「家を守って貰っている」。このスタンスの絶妙な表明と継続こそが命綱なのであります。“コツ”と云えば毎朝(6時)～毎晩(門限23時)のテレコール。“朝グッ起きろ!”と本日の「生存宣言」, “寝るぞ!”の「終り宣言」, これは大袈裟に云えば“生き死に”に関わる重要メッセージでありまして一度たりとも怠れば罰金を喰うシステムとなっているのです(携帯電話で居所を誤魔化しアリバイ造りなぞ小心者の私にはとてもできない小技です)。

家人の頭上を飛び越え、はたまた近隣の六甲トンネルを突っ走り、ようやくの盆暮れに「タダイマッ!」。大歓迎がたとえ2匹の犬の突進だけであっても、「貴方は被災者じゃナイ!」と阪神大震災時の不在を何回話られても、「一家団欒の賞味期限4日間」であっても、「マタ来てね」と送り出されても決して罰金遅払いや不服申し立てをしてはならないのです。これが私の受け容れたルールで平らかな精神状態維持となり“我が一家”が見事成立している次第です。

こう述べれば「功無く罪のみ」と思われてしまいますが私は自立自浄のリズムを完璧?に身につけたのであります。簡潔に申せば、

- ① 酒(独酌),
- ② 飯,
- ③ 本,
- ④ (俊敏?な) フットワーク,

でしょうか。

① 酒は絶対寮には置かず、吞まず。(止める者がいないので1本空けてしまい宿酔間違い無し。酒は焼酎720mlの一本槍)

②は“仇”に出遭ったように「納豆溶き漬け汁/ざる蕎麦一把」をやっつける。空腹我慢～胃

袋減容化～肥満防止。鍋をセットして洗い終わるまで18分。決して味気無いなどと思っ
てはいけません（=実は既に肥満）。

③は兎に角手当たり次第読む、読む、読んで静かに眠るのです。実は今「浅田次郎」に嵌ま
っているのです。最初手にしたのが“アウトローシリーズ”「キンピカ」「プリズンホテル」。手に
した当時の10月の気の処し方にピッタリ。痛快無比、笑いと涙、男気と美学、男のロマンに満
ちたストーリー展開。読みましたネ、一晩で一冊は。“遅咲き”の浅田次郎著書は全部読んでい
るでしょう。

ところで彼は全く筆致の異なる作品をきっと呻吟、苦吟して書いたのでしょうか、「壬生義士
伝」「霞町物語」「天切り松闇物語」「オオマイガッ！」など広がりのある作風、渾身の入れ込み、
秀逸な文章。久し振りに面白い作家と出遭ったものです。彼には「明治、大正、昭和、敗戦後
の東京・東京弁」がよく似合う、と読んでいたら盛岡、中国などアチコチ取材も豊富で駄作に
はまだ出食わしていません（もっとも出版全冊を読んでしまっアトがもう無い。彼は遅筆ら
しい）。しかし夜っぴいて寮で独り、笑い、泣き、目剥きながら読む姿は滑稽モノです。つまら
ないTVに向かって呟き始めるよりはマシかと思っている次第です。

④は「時間は自分で造るモノ」と心得、100%己のスケジュールで動ける素晴らしさ。何時で
もどこでも行き、押しかけで嫌われても意に介さず、何か喋って来る。「聞き上手は話し上手」
とうそぶき、大概2時間内で目的を達する身勝手さ。朝の出勤はほぼ07:15前後（但し、退社
は18:00）。

家人に「朝一番の出勤は会社の人に嫌われる因よ」と云われても“朝っぱらから、会社以外
に行くところアルカ？”とこれは完全な開き直りでしょうね。まして“特別制度休暇”は、な
んと会社に行って皆と一緒に“リフレッシュだ！”，と広言して憚らず。迷惑者を永年やってお
ります。

さて団塊の世代の私。娘がまた第二団塊で正に「高齢化～少子化」の当事者としては、これ
からの日本の行く末にはやはり不安を想いますね。「単身赴任のコツ・功罪」などと勝手気儘を
云っている場合ではないでしょう。

日本の今を駄目にしたのは戦後の教育ではないでしょうか。「結果の平等」を唱えて来た戦後
教育は「機会の公平さ」の芽を摘み取り、チャレンジの気を薄め、「均一、無差別、没個性、金
太郎飴」等を第一義とし、強者の自覚を捻じ曲げ、弱者救済すべきを、結果“いじめ、虐待、
引き籠もり”現象を引き起こしているのです。あまりに「個の自由」「個の尊厳」を何の基盤無
しに必要以上に説いたため、家庭での“躰”が「優しい親」「友達感覚の親」でなし崩しに駄目
にしたのでしょうか。

明日の日本を感じられない子供達を創出してしまったのは“団塊の父親”達なんでしょうか。
“躰”は「我慢」であります。

果たして“単身生活”は放し飼いでありましようか。「おまかせくださりませ！」と“利家と
まつ”に親しむ家人の声が聞こえてまいります。（駄文お付合頂き、深謝いたします。“寄稿”
は気儘なれどヤァ大変な数時間でした）。